

MHzで受信して画像を構築した。対象は TEE で弁の腫瘍と疣贅等が確認された症例について検討した。

【結果】 THI では通常の心エコー法よりも心臓内の構造物の輪郭がはっきりと認められ、条件が良ければ TEE に近い像も得られた。

【考察】 THI は心臓内の異常構造物の検索に有用であると考えられたが、その理由として①第二高調波はある程度の深さがなければ生じないためプローブと皮膚の接触部分や肋骨などの浅い構造物によるアーチファクトが軽減されること、②第二高調波は固相の方で液相より強く生じるため液相と固相の境界が強調されるためなどであると考えられた。したがって THI は通常的心エコーよりも心機能計測等に有効であるだけでなく心臓内の異常構造物の検出にすぐれているものと考えられた。

5) 右心房血栓の2手術例

竹久保 賢・中沢 聡	（新潟市民病院）
名村 理・吉谷 克雄	
金沢 宏・山崎 芳彦	（新潟大学）
渡辺 弘	
津田 隆志	（木戸病院）
保坂 幸男・伊藤 英一	
田辺 恭彦・鈴木 薫	（県立新発田病院）
	（内科）

心房細動に伴い右心房に生じた血栓に対する手術を経験したので報告する。

症例1：71才女性 46歳時に肺動脈狭窄に対する手術の既往あり。6年前より心房細動を指摘されている。平成10年5月頃より動悸、息切れを自覚。心エコーで右心房に腫瘤を認めた。手術は完全体外循環を行い心拍動下に右心房切開、約3cmの大きさの腫瘤を摘除した。病理組織検査では表面に新鮮血栓の付着した血栓であった。

症例2：63才男性 昭和61年より心房細動を指摘されていた。平成10年3月肺炎で入院時、胸部レ線に異常陰影を認め、CT、心エコーで右房腫瘤と診断された。手術は腫瘤を摘除しメイズ手術を追加した。腫瘤は大きさ2.5cmの血栓であった。術後心房細動は消失し、AAIペーシングで心房収縮の改善を認めた。

第26回新潟高血圧談話会

日時 平成10年11月13日（金）
午後6時より
場所 新潟大学医学部 有壬記念会館
2階大ホール

特別講演 I

「地域医療とインターネット—地域医療情報ネットワークと患者データの保護—」

新潟大学医学部附属病院医療情報部

羽柴正夫先生

(e-mail: hashibamed.niigata-u.ac.jp)

世界的な規模のコンピュータネットワークであるインターネットは1980年代後半に研究者の利用が盛んとなり、1990年代には商用化により広く一般に開放され世界的に普及してきた。新潟大学にインターネットと接続された学内 LAN が整備され、稼働したのは、1994年5月のことである。新潟地域でも、全県的なインターネットフェスティバルが1996年に開かれるなど、急速に普及してきた。医療への、このコンピュータネットワークの応用が期待されている。

インターネットで利用できる代表的な情報サービスは、電子メール、WWW（ホームページ）、ネットニュース、MEDLINE などのデータベース検索や遠隔地のコンピュータの利用などが挙げられる。なかでも、電子メールおよびホームページは多くのユーザがあり、代表的なアプリケーションといえる。インターネットに接続された組織の LAN が整備されていれば、パソコンを情報コンセントに接続し、必要な設定をするだけで、これらが使えるようになる。あるいは、電話回線を利用してインターネットサービスプロバイダーに接続することになる。電子メールは、瞬時に相手の私書箱に、はがき（電子化された文書）が届く。画像などのファイルも添付することができ、いずれも再利用ができる。ホームページは、文書の中に、画像や自分の持つ文書だけでなく、他のサーバーの情報に到達するためのリンクが記載ができる。リンクをクリックすることで容易に種々の情報を閲覧でき、キーワードから該当するホームページ検索する「検索エンジン」のサービスもある。

このようなインターネットに組織の LAN が常時接続されている医療機関は少ないが、関係者のダイアルアップ接続での利用は広まっている。地域医療情報ネットワー

クとして WWW や電子メールによる情報の交換や、メーリングリスト機能を使った議論や質疑を行える環境は整いつつある。救急医療、遠隔医療や在宅医療にコンピュータネットワークを利用する試みも多くなされている。

インターネットという、言わば公道を使って患者情報を流通させようとする場合、プライバシーの保護が問題となり、解決策一つとして情報の暗号化がある。電子メールの場合は、公開鍵と電子署名を使った暗号化方式が、ホームページの情報のやり取りには SSL (Secure Socket Layer) が多く使われる。いずれも、しっかりした証明書発行局を必要とするが利用方法も比較的容易であり、実用的と考えられる。

地域の保健・医療関係機関が、高速ネットワークで常時接続され、住民にネットワーク利用が普及することで、救急医療や在宅医療情報だけでなく福祉、保健に関する情報を公開提供したり、遠隔医療、在宅医療の実施が容易になる。従来は閉じられた病院のネットワークもセキュリティに配慮した開かれたネットワークとなることで、患者データの相互利用も可能となろう。

特別講演 II

「高血圧の診断・治療・管理—JNC—VIを中心に—」

東北大学名誉教授・仙台社会保険病院院長

阿部圭志先生

近年、有用性の高い降圧薬が開発され、降圧させるということに限れば、ほぼ満足できるようになった。しかし高血圧治療の目的は単に血圧を下げることではない。長期にわたり血圧をコントロールすることにより、脳・心・腎など標的主要臓器の合併症の発症を防ぐことが重要である。主要臓器に高血圧性血管障害が生ずると、重篤な合併症が発症し、患者の予後が悪くなる。

最近の高血圧治療に関する大きな課題は合併症のある高血圧の治療、特に脳・心・腎の保護作用が目ざされている。昨年11月米国における高血圧の予防・診断・治療に関する合同委員会の第6次報告 (JNC—VI) でも、高血圧による主要臓器障害や心・血管系の疾患を重視し、その有無により高血圧患者を層別化し、各群に関する治療指針を示している。特に無作為比較対称試験で有用性が実証された糖尿病性腎症、心不全、心筋梗塞などの治療には強制的を示す Compelling indication (絶対的適応症) として特定の治療薬のフローチャートに組み入れて心・血管系疾患の治療予防に積極的に取り組んでい

る。JNC—VIでは、新しい高血圧の治療指針と将来の治療、管理の展望について述べさせていただく。

平成10年度新潟大学医学部精神医学教室 同窓会集談会

日 時 平成10年12月5日 (土)
午後1時より

会 場 新潟市 「オークラホテル新潟」
4階 末広の間

- 1) 血中ハロペリドール濃度に及ぼすクロロプロマジン併用の影響
—薬物相互作用の個体差と CYP2D6 遺伝子型との関連—

鈴木雄太郎・染矢 俊幸	(新潟大学医学部 精神医学教室)
下田 和孝・広兼 元太	(滋賀医科大学 精神科)
森田 幸代・横野 文	
深水 弘輔・東 美鈴	
高橋 三郎	(埼玉江南病院)
井上 義政	(吉富製薬薬物動 態研究部)

【目的】クロロプロマジン (CPZ) は CYP2D6 阻害作用を持ち、従来の報告では血中ハロペリドール (HAL) 濃度を有意に上昇させるといわれているが、日本人の同一個体で縦断的比較による詳細な検討はなされていない。そこで今回我々は、CPZ の併用が血中 HAL 濃度に及ぼす影響、及び薬物相互作用の個体差と CYP2D6 遺伝子型との関連について検討したので報告する。

【方法】対象は HAL 内服中の精神分裂病入院患者で、HAL 単剤で治療されていたその前後に HAL に CPZ を併用しており、本研究に同意の得られた男性61名とした。年齢は33~69 (50.1 ± 8.5, mean ± SD) 歳、HAL 用量は2.0 ~ 27.0 (10.1 ± 6.3) mg、CPZ 用量は50 ~ 300 (85.2 ± 57.3) mg であった。採血は同一処方2ヵ月以上経過した時点の早朝服薬前に行い、血中 HAL 濃度の測定は高速液体クロマトグラフィー (HPLC) によって行った。61名中52名については得られた末梢血から、QIAamp Blood Kit を用いて DNA を抽出し、正常遺伝子 CYP2D6*1 と変異遺伝子 CYP2D6*2 及び*10の有無について PCR 法 (Johansson ら, 1994) にて検討した。また、CYP2